

6月1日から一斉登校、通常授業が始まった。学校での「学び」について思いを巡らせていた時、『福岡伸一の動的平衡』「少年のノート 私の言葉」（朝日新聞）の文章が目にとまった（一部引用）。

（冒頭略）

銀座で会ったのはテレビの関係者。新聞や本を読んで興味をもったことや気づいたことをスクラップしたり、絵つきで書き留めたりする「**自学ノート**」を何冊も書いている少年を追った番組を作ったディレクター。少年は自分が周囲から少し浮いていること、**変わり者**と思われていることをちゃんと分かっている。でも彼は書くことに**自分の居場所**を見つけた。そして世界との関係を構築している。その番組の中で、私の著作『ルリボシカミキリの青』の一節が引用されていた。

「大切なのは、**なにか一つ好きなことがあること**、
そして**好きなことがずっと好きであり続けられること**の旅程が、
驚くほど豊かで、君を一瞬たりともあきさせることがないということ。
そしてそれは**静かに君を励ましつづける**。
最後の最後まで励ましつづける。」



私の**ささやかな言葉**が、遠く離れた誰かの心を、
思わぬかたちで**支えていた**ことを知って胸が熱くなった。

上で触れている少年の名は、梅田明日佳くん。彼を取り上げた番組が、「**ボクの自学ノート～7年間の小さな大冒険～**」（NHK BS1 スペシャル）。以下、佐々木健一氏（番組ディレクター）の言葉を引用。

梅田明日佳くんは、小3～中3までの7年間、「**自らテーマを見つけ学ぶ自学**」にのめり込んだ少年です。自学は元々、小学校時代に出された自由課題（宿題）でした。ただ、彼は他の子と違い、この取組を中学生になっても続けました。学校の成績とは関係なくても…

なぜ、彼は「**自学**」を続けたのか。そして、「**自学**」から何を得たのか。
周囲から「不思議な子」「謎めいた存在」と思われていた梅田くん。

取材を進める中で、もし私が「梅田明日佳くんってどんな子？」と聞かれたらどう答えるだろうかと考えました。私の答えは、「考えさせられる子」です。ひたむきな彼の姿はもちろん、地域の大人との関わりや彼を取り巻く“社会”の有様を見ていると、様々な“問い”が浮かんできて、否応なく考えさせられてしまうのです。

「**学び**」とは本来、何なのか？ 「**伝える**」ってどういうこと？
「**大人**」は、「**これからの日本**」は、どうあるべきか？

番組の放送は、「平成」が終わり、新たな時代の幕開けとなる「令和元年」初日(2019.5.1)です。そのタイミングに多くの人が“これから”について考えるきっかけになればと思っています。

番組で、「明日佳くんにとって『**自学ノート**』とは？」と聞いたところ、

明日佳：「切っても切り離せない存在です。ボクの中では、必要不可欠なものになっています。**自分が今、どんなことを思っているか。以前、どんなことを考えていたか。それを見直すことができる。自分の考えをまとめるものであり、自分の心の支え**でもあると思っています。」

皆さんにとっての「**自学ノート**」が「**G1 キャリアパスポート**」である。所定の欄に書き切れない場合は用紙をたして、あなたの考えたことをまとめよう。君の日常が**彩り**あるものになるよ。

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎